

活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 Δ 」反應 ニ關スル知見補遺(其ノ一)

東京市療養所

鴻上慶治郎

高橋進

佐々木盛

的ニ作用スル物質ニ關スル論議

第二節 「レチ、ン」ヲ溶解スル酒精ノ%ノ反應度ニ及ボス影響

第三節 長時間保存セル「セラチン」食鹽水溶液内ニ起ル一種ノ變化ニ就イ

テ

第四節 「 Δ 」反應ニ關スル爾後ノ實驗例

第一項 肺結核患者ニ就イテ

第二項 結核疑似者、黴毒、癩及其ノ他ノ結核外ノ疾患肺臟以外ノ結

核及健康人等ニ就テ

第三項 ザックス、ゲオルギー氏反應、マイニツケー氏反應、ワッセ

ルマン氏反應ノ比較實驗

綜括

目次

緒言

第一節 「レチ、ン」製劑内ニ夾雜シテ「 Δ 」反應ノ發現ヲ抑制セシムル物

質ノ研究

第一項 種々ナル「レチ、ン」製劑ノ反應銳敏度ノ比較

第二項 「レ、チン」製劑ヲ開栓貯藏スル事ノ反應銳敏度ニ及ボス影響

第三項 濾過ト無濾過ノ「レチ、ン」溶液ノ比較

第四項 「レチ、ン」ノ酒精溶液ヲ冰室ニ貯藏シテ析出スル物質ノ「 Δ 」

反應ニ及ボス影響

第五項 「レチ、ン」溶液ヲ冰室ニ貯藏シテ析出スル物質ノ化學的性質

第六項 坊間販賣ノ卵黃「レチ、ン」製劑内ニ夾雜シテ「 Δ 」反應ニ抑制

緒言

著者等ノ一人鴻上ハ本誌第三卷第一號デ活動性結核ノ診斷及ビ豫後測定ヲ目的トシテ疑析沈降反應ヲ報ジテ、之ヲ便宜

原著 鴻上・高橋・佐々木||活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 Δ 」反應ニ關スル知見補遺

五九五

上「 Δ 」反應ト命名シタ。而シテ此ノ際既ニ使用スル「レチ、ン」製劑ハ必ズシモ其ノ鋭敏度ハ一定シナイデ、或ルモノハ頗ル良好ナ試薬トナリ得ルガ、或ル製品ハ效力極メテ薄弱ナコトガアルノヲ述ベテ、其ノ原因ガ那邊ニ在ルカ、後日ノ研究ヲ約シテ置イタ。爾來著者等ニヨツテ此ノ間ノ實驗ヲ重テ多少興味アル結果ヲ得タ。更ニ復タ種々ナル疾患ニ對シ多數例本反應ノ實驗ヲ試ミタレバ、茲ニ取り敢ヘズ是等ノ成績ヲ一括トシテ補遺ノ一編ヲ記述シテ置ク次第デア
ル。

第一節 「レチ、ン」製劑内ニ夾雜シテ凝析反應ノ發現ヲ抑制セシ

ムル物質ノ研究

第一項 種々ナル「レチ、ン」製劑ノ鋭敏度ノ比較

余等ハ「レチ、ン」製劑トシテ三共會社製品卵黃「レチ、ン」三種(D. D. F. ⁽⁴⁷⁾及⁽⁴⁸⁾ E)ノ各記號ヲ商標ニ附セルモノト、「メルク」會社ノ卵黃製劑「 Δ 」號トヲ使用シタ。是等ノ各「レチ、ン」製劑ヲ日本藥局法純酒精ニ一%ノ比ニ溶解シテ、二十四時間氷室ニ貯藏シタ後ニ普通ノ濾過紙デ濾過シテ濾液ヲ既定ノ法ニ從ツテ生理的食鹽水デ六倍ニ稀釋シテ結核患者ノ同一血清ニ就イテ比較實驗ヲ試ミタ。其ノ結果ハ第一表ニ示ス通りデ三共製劑ノ「 Δ 」及「E」ナル記號ノアルモノハ大體其ノ鋭敏度ハ同等デ、強力ナ良好ナモノデアアルガ、Fナル記號ヲ附ケテアル製品ハ遙カニ前記ノモノニ比較スルト反應度ハ薄弱デ、更ニ「メルク」ノ製品ハ一層劣弱デアアルコトガ認めラレタ。

第一 表

結核血清番號	三共(D.F.)470	三共(D)	三共(F)149	「メルク」(1821)
Nr.1	KA ₇ (III,IV,VI)	KA ₅ (III,IV,VI)	KA ₂ (VI,VI,VI)	KA ₂ (VI,VI,VI)
Nr.2	KA ₇ (II,III,IV)	KA ₇ (II,III,IV)	KA ₄ (III,IV,IV)	KA ₃ (IV,IV)
Nr.3	KA ₂ (VI,VI)	KA ₂ (VI,VI)	KA ₀	KA ₀

Nr.4 KA₁(III+IV+) KA₁(III+IV+) KA₂(VI+VII+) KA₁(VI+)

Nr.5 KA₃(V+VI+) KA₃(VI+VI+) KA₁(VII+) KA₆

(附記) 實驗操作法竝ニ反應記載方ナドハ悉ク結核第三卷第一號ニ報ジテ置イタカラ參考セラレタシ。但シ本論ニ使用シタ「A」液ハ其ノ最大食鹽ノ含有量ヲ一・七%トシタ。「A」ノ各液ニハ防腐ノ目的デ〇・〇五%ノ比ニ「ヤトレン」ヲ溶解シテ使用シタ。今念ノ爲メニ「A」ノ各液ノ處方ヲ記シテ見ルト。

A₁ハ〇・一%ノ精製「ゼラチン」水溶液

A₂ハ〇・二五%ノ精製「ゼラチン」水溶液

A₃ハ〇・五%ノ精製「ゼラチン」水溶液

A₄ハ〇・五%ノ精製「ゼラチン」水溶液ニ〇・二%ノ比ニ食鹽ヲ溶解ス

A₅ハ〇・五%ノ精製「ゼラチン」水溶液ニ〇・七%ノ比ニ食鹽ヲ溶解ス

A₆ハ〇・五%ノ精製「ゼラチン」水溶液ニ一・二%ノ比ニ食鹽ヲ溶解ス

A₇ハ〇・五%ノ精製「ゼラチン」水溶液ニ一・七%ノ比ニ食鹽ヲ溶解ス

如述ノ實驗デ「レチ、ン」製劑ノ何レノ物デモ對照ハ等シク陰性デ、健康者ノ血清ニモ亦同様ニ陰性デアリシコトハ勿論デアル。

第二項 「レチ、ン」製劑ヲ開栓貯藏スル事ノ反應銳敏度ニ對スル影響

卵黃「レチ、ン」製劑デモ出處ヲ異ニセルモノハ前節ニ述ベタヤウニ反應ノ銳敏度ガ相違スル。更ニ同一ノ「レチ、ン」製劑デモ新鮮ナルモノト、陳舊ニナツタモノ或ハ開栓シタ儘デ室内ニ放置シテ置タト甚ダシク銳敏度ニ差異ヲ生ジテ來ル。一般ニ謂フト一定期間マデハ開栓シテ貯藏スル日時ニ比例シテ銳敏度ヲ増加シテ來ル。大體凡ベテノ卵黃「レチ、ン」製劑ハ開栓シテ約半歲後ヲ經ルト一定ノ銳敏度ヲ得ルヤウニナル。故ニ本反應ニ使用スル卵黃「レチ、ン」ハ一定期間開栓シテ貯藏シタモノデナイト、必ズシモ悉クハ「レチ、ン」ガ製造ノ儘ノ新鮮ナ狀態デ本反應ニ使用シ得ラレルト

ハ限ラナイ。「レチ、シ」ヲ開栓シテ室内ニ貯藏スルト次第ニ濕潤ノ度ト銚色ノ度モ増シテ餘程透明ナヤウニナツテ來ル。純酒精ニ溶解シテ冰室ニ貯藏スルト新鮮ナモノニ比較シテ帶黃褐色白色不溶性ノ析出物ノ粒子ガ粗大デ析出スル時間モ遙カニ早イ(第二表參照)。

第二表 貯藏日時ニヨル「レチ、シ」ノ反應

鋭敏度ノ相異

Nr. 8	Nr. 7	Nr. 6	號番清血核結
KA ₃ (V++)	KA ₇ (I++)	(KA ₄ (IV++,V++))	共三 D. F. 470
KA ₁ (VII++)	KA ₄ (IV++,V++)	KA ₂ (VI+,VII++)	共三 F. 1821
KA ₁ (VII++)	KA ₃ (V++)	KA ₂ (VI+,VII+)	「カルメ」 1821
KA ₃ (V++)	KA ₇ (I++)	KA ₄ (IV++)	共三 D. F. 470
KA ₁ (VI++)	KA ₆ (II++,III++)	KA ₃ (V++)	共三 F. 149
KA ₁ (VI++)	KA ₅ (III++,IV++)	KA ₃ (V++,VI++)	「カルメ」 1821
KA ₁ (V++)	KA ₇ (I++)	KA ₄ (VI++)	共三 D. F. 470
KA ₃ (V+)	KA ₇ (I++)	KA ₄ (IV++)	共三 F. 149
KA ₃ (V+)	(KA ₇ (I++))	(KA ₄ (IV++))	「カルメ」 1821

(附記)本編ヲ通ジテ實驗ニ結核血清ノ多量ヲ必要トスル場合ハ數人ノ患者(微毒ノ併合シタモノハ取り除イテ)ノ血清ヲ混合シテ各々「レチ、シ」ノ如ク命名シタ。第二項ノ實驗ニ使用シタ「レチ、シ」溶液ハ局方ノ純酒精デ一%ニ製出シテ二十四時間冰室ニ貯藏シタモノヲ普通濾紙デ濾過シタモノデアアル。

第三項 濾過ト無濾過ノ「レチ、シ」溶液

ノ比較

反應ニ使用スル「レチ、シ」溶液ヲ普通濾紙デ濾過シタモノト濾過シナイデ其儘使用シタモノト比較スルト、必ズ濾過シタモノガ後者ヨリモ反應度ハ強烈ニ現ハレル、又同じク濾過ト云ツテモ、普通濾過紙ヲ用ヒタモノト硬化濾紙トデハ相違ガ在ツテ、前者ハ後者ヨリモ常ニ必ズ反應度ハ微弱デアアル。故ニ反應ニ使用シテ良好ナ「レチ、シ」溶液ヲ製出スル爲メニハ「レチ、シ」ヲ一定期間開栓シテ放置シタモノヲ普通ノ濾紙デ濾過スルカ、或ハ硬化濾紙ヲ使用スル場合ナレバ必ズシモ長期間放置シタ「レチ、シ」デナクとも、一ケ

Nr. 9
KA ₁ (VII ₊₊)
KA ₀
KA ₀
KA ₁ (VII ₊₊)
KA ₁ (VII ₊)
KA ₀
KA ₁ (VII ₊₊)
KA ₁ (VII ₊₊)

月位デモ充分良好ナ試藥ヲ得ラレル(第三表及四表参照)。

第三表 濾過ト無濾過ノレチ、
シタル際ノ反應度ノ相違

Nr. 12	Nr. 11	Nr. 10	號番清血核結	
KA ₄ (IV ₊₊)	KA ₇ (I ₊₊)	KA ₆ (II ₊ , III ₊₊)	共 三 D. F. 470	普通 濾紙 濾過
KA ₂ (VI ₊₊)	KA ₅ (III ₊ , IV ₊₊)	KA ₄ (IV ₊₊ , V ₊₊)	共 三 F. 140	
KA ₂ (VI ₊)	KA ₄ (IV ₊₊)	KA ₃ (V ₊₊)	「クルメ」 1821	無 濾 過
KA ₁ (IV ₊ , V ₊₊)	KA ₆ (II ₊₊)	KA ₅ (III ₊₊)	共 三 D. F. 140	
KA ₁ (VII ₊₊)	KA ₃ (V ₊ , VI ₊₊)	KA ₄ (IV ₊ , V ₊₊)	共 三 F. 470	
KA ₁ (VII ₊₊)	KA ₄ (IV ₊)	KA ₁ (V ₊ , VI ₊₊)	「クルメ」 1821	

第四表 普通濾紙ト硬化濾紙ヲ使用
シタル際ノ反應度ノ相違

Nr. 15	Nr. 14	號番清血核結	
KA ₄ (IV ₊₊ , V ₊₊)	KA ₃ (V ₊₊ , V ₊₊ , VII ₊₊)	共 三 D. F. 470	普通 濾紙
KA ₃ (V ₊₊ , VI ₊₊)	KA ₂ (VI ₊ , VII ₊₊)	共 三 F. 140	
KA ₃ (V ₊ , VI ₊₊)	KA ₂ (VI ₊ , VII ₊₊)	「クルメ」 1821	硬化 濾紙
KA ₅ (III ₊₊ , IV ₊₊)	KA ₃ (V ₊₊)	共 三 D. F. 470	
KA ₅ (III ₊ , IV ₊₊)	KA ₃ (V ₊₊ , VI ₊₊)	共 三 F. 140	
KA ₅ (III ₊ , IV ₊₊)	KA ₃ (V ₊₊ , VI ₊₊)	「クルメ」 1821	

第四項 「レチ、シ」ノ酒
精溶液ヲ冰室ニ
貯藏シテ析出ス
ル物質ノ「シ」反
應ニ及ボス影響

前項デ述ベタヤウニ濾過シタモノト無濾過ノ「レチ、シ」ノ溶液ハ反應度ガ相違スル。故ニ恐ラク冰室ニ貯藏(室溫デモ徐々ニ起ルガ)シテ析出シテ來ル帶黃褐色ノ粒子ガ「シ」反應ヲ抑制セシムルモノデアアルコトハ直ニ想像セラレル。ソレデ余等ハ「レチ、シ」ヲ純酒精ニ溶解シテ之ヲ二十四時間冰室ニ貯藏シテ充分ニ不溶性ノ前記ノ析出粒子ヲ

原 著 鴻上・高橋・佐々木 活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「シ」反應ニ關スル知見補遺

Nr. 13
KA ₃ (V+,VII++)
KA ₁ (VII++)
KA ₁ (VII+)
KA ₂ (VI++,VII++)
KA ₁ (VII+)
KA ₀

Nr. 16
KA ₂ (III++,IV++)
KA ₂ (V++)
KA ₁ (V+,VI++)
KA ₂ (III++)
KA ₂ (III++)
KA ₂ (III++)

之ヲ種々ナル量的關係ヲ豫メ用意シテ置イタ良ク反應スル「レチ、シ」溶液ニ混入シテ、反應抑制的效果ノ有無ニ就キ對照ト比較實驗ヲ試ミタ。結果、此ノ沈澱物ヲ一定量以上ニ含有シテ居ル「レチ、シ」溶液ハ、反應ノ發現ヲ著シク減弱スルカ或ハ皆無トナサシメルモノデアアルコトハ分明シタ。其ノ量ガ約〇・五%内外ノ比ニ溶解シタモノデハ、反應ノ發現ヲ全ク阻止スル。〇・〇一五%ノ比ニ溶解シタモノデモ尙ホ輕度ニ抑制スル、〇・〇〇七%以下ノ比ニ溶解シタモノデハ此ノ沈澱物ヲ混入シナイ對照ノモノト殆ンド反應度ニ差異ガ無クナル。故ニ冰室ニ貯藏シテ析出シテ來ル不溶性ノ凝塊ハ、明カニ反應ニ抑制的ニ作用スルモノデアアルコトハ確認セラレタ譯ダガ、普通ノ濾過紙上ニ集莖セラル、モノヨリモ普通濾紙ノ濾目ハ通過スルガ、硬化濾紙ノ夫レハ通過シ得ナイ微細ナル不溶性粒子ガ寧ろ強烈ナル反應阻止的作用ヲ有シテ居ルモノデアアル(第五表參照)。

第五表 「レチ、シ」溶液ヲ冰室ニ貯藏シテ析出スル不溶性物質ノ反應抑制作用

Nr. 17	結核血清番號		
KA ₀	11%	析出沈澱物混入ノ比率	對照
KA ₀	1%		
KA ₀	0.5%		
KA ₂ (VI+,VII++)	0.5% :: 0.111% ::		
KA ₂ (V++,VI++)	0.111% :: 0.0% ::		
KA ₄ (IV++,V++)	0.0% :: 0.010% ::		
KA ₅ (III++,IV++,V++)	0.010% :: 0.004% ::		
KA ₅ (III++,IV++)	0.004% :: 0.005% ::		
KA ₅ (III++)	0.005% ::		
KA ₅ (III++)	對照		

第五項 「レチ、シ」

溶液ヲ冰室ニ貯藏シテ析出スル物質ノ化學的性狀
 「レチ、シ」溶液ヲ冰室ニ貯藏シテ析出シテ來

Nr. 18

KA₀

KA₀

KA₀

KA₃(V++,VI++)

KA₄(IV++,V++)

KA₅(III+,IV++,V++)

KA₆(II++,III++)

KA₆(II++,III++)

KA₆(II++)

KA₆(II++)

KA₆(II++)

ル不溶解性ノ凝塊中ニハ>>反應ヲ抑制セシムル物質ヲ含ムデ居ル。サレバ此ノ凝塊ノ化學的性狀ヲ追究シテ

其ノ本態ハドンナモノデアアルカラ決定シタイト思ツタガ、目下ノ處デハ其ノ本態ヲ明カニ知ルコトガ出來ナイコトヲ甚ダ遺憾トスル。此ノ事ニ就イテハ、今後ノ研究ニ待ツコト、シテ、唯其ノ化學的性狀ノ大體ヲ述ベテ識者ノ批判ヲ乞フコトニシタ。「メルク」會社製卵黃「レチ、ン」(Lecithin)ヲ局方純酒精ニ溶解シテ二十四時間冰室ニ貯藏シタモノヲ普通ノ濾紙デ濾過シテ凝析物ヲ集蒐シテ之ヲ更ニ遠心器ヲ以テ純酒精デ數回叮嚀ニ繰リ返シテ洗滌シテ最後ニ上清ノ酒精ヲ「ピベット」デ吸ヒ取ツテ、沈澱物ヲ乾燥裝置ニ入レテ殘餘ノ酒精ヲナル可ク取り去ツタモノニ就イテ次ノヤウナ實驗ヲ行ツタ。

(一)「エーテル」ニハ微カニ溶解ス。

(二)純「エーテル」酒精ニハ全ク不溶デ加温シテモ同様ニ不溶性デアアル。

(三)「ベンツォール」ニハ全ク溶解シテ液ハ美麗ナ帶黃褐色ヲ呈スル。

(四)「アセトン」ニハ全ク不溶。

(五)石油「エーテル」ニハ僅カニ其ノ一部ガ溶解ス。

(六)「クロ、ホルム」ニハ全ク溶解シテ液ハ帶黃褐色デアアル。

(七)石油「ベンチン」ニハ一部分ガ溶解スル。

(八)「トルオール」ニハ全ク溶解スル。

(九)「キシロール」ニモ亦全ク溶解スル。

原 著 鴻上・高橋・佐々木 活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「アン」反應ニ關スル知見補遺

- (十) 餾水ニハ徐々ニ溶解スル、加温スルト直ニ溶解スル。
- (十一) 生理的食鹽水ニモ徐々ニ溶解スル、加温スルト直ニ溶解スル。
- (十二) 此ノ沈澱物ニハ蛋白質ノ現色反應ナドハ何レモ全く陰性デアアル。
- (十三) 此ノ沈澱物ヲ餾水ニ溶解シテ透析ヲ行ツテ膜ヲ透過シナイ。
- 以上ノ實驗カラ考ヘルニ、此ノ沈澱物ハ一種ノ膠質デアツテ、蛋白質ヤ普通ノ所謂「 α 」ナドノ類デナイコトハ明カデアアル。

第六項 坊間販賣ノ卵黃「 α 」製劑内ニ夾雜シテ「 β 」反應ニ抑制的ニ作用

スル物質ニ關スル論議

市井ニ販賣セラレテ居ル卵黃ノ「 α 」製劑ハ前ニ述ベタヤウニ必ず多少ニ拘ハラズ純酒精ニ不溶性ノ物質ヲ夾雜シテ居ル。此ノモノハ取りモ直サズ「 β 」反應ノ發現ヲ抑制スル作用ノアルモノデ、若シ「 α 」製劑デ純酒精ニ溶解シテ冰室ニ貯藏シテモ全く不溶性ノ析出物ヲ出サナイヤウナモノガアレバ、此ノモノハ「 β 」反應ニ使用シテ最モ良好ナ製品デアアル。若シ析出物ヲ發生スル様ナ製品デアラナラバ此ノ析出粒子ヲ完全ニ溶液ヨリ除キ去ラチバ多少ニ拘ハラズ「 β 」反應ノ鋭敏度ガ減殺セラレテ來ル。此ノ間ノ實驗ハ無濾過ト濾過シタ「 α 」溶液ノ比較ヤ、普通濾紙ト硬化濾紙トニヨル比較、或ハ又直接不溶性析出物質ヲ「 α 」溶液ニ混入シタ比較ナドデ、充分解明シテ置イタ。新鮮ナル「 α 」製劑ガ多クノ場合ニ開栓シテ久シク貯藏シタモノニ比較シテ反應ノ鋭敏度ガ薄弱デアアル事實ハ、恐ラク開栓シテ貯藏スル間ニ空中ノ濕氣ヤ炭酸瓦斯ナドノ影響デ純酒精ニ溶解シタ際ニ發生スル不溶性粒子ガ粗大ナ形ヲ取ルヤウニナツテ來ル。ソレデ普通ノ濾紙ヲ使ツテモ完全ニ此ノ粒子ヲ除キ去ルコトガ出來ルカラデアラウ。之ニ反シテ新鮮ナ密栓シタモノヲ直ニ使用スルト、不溶性ノ粒子ノ一部ガ甚ダ微細デ普通濾紙ノ濾目ヲ通過スルコトガ出來ル。從ツテ是等ヲ完全ニ除キ去ルコトガ不可能デアアルコトガ反應ヲ薄弱ニスル原因デアラウ。ダカラコンナ際デモ硬化濾紙ヲ使テ完全ニ微細ナ粒子迄モ除キ去ルコトガ出來ルナラバ、反應ニ使用シテ充分良好ナ一定シタ溶液ヲ得ルコトガ出來ルノデアアル。

第二節 「レチ、シ」ヲ溶解スル酒精ノ%ノ反應度ニ及ボス影響

本反應ニ使用スル「レチ、シ」溶液ノ「エチール」酒精ノ%ハドンナ程度デ最モ都合ガ好イカラ實驗シタ。其ノ結果ニ據ルト約九八・六%ヨリ九〇%位マデ反應度ニ大差ガナイガ、九〇%以下デハ次第二反應度ガ減弱シテ、七〇%以下デハ殆ンド無能トナル。全ク純ナ酒精ヨリモ却ツテ九七%内外ノ酒精ノ方が却ツテ反應ガ幾分強ク現ハレルヤウダカラシテ、此ノ反應ニハ局方ノ純酒精ヲ使用シテ充分デアル(第六表參照)。「エチール」酒精ノ代リニ純「メチール」酒精ヲ使フト反應ノ結果ハ面白ク行カナイ。

第六表 酒精ノ%ト反應銳敏度

Nr. 20	Nr. 19	號番清血核結	「エチール」酒精ノ%
KA ₃ (V++,VI++)	KA ₅ (II++,III++)	99%	
KA ₃ (V++)	KA ₅ (II++)	97,,	
KA ₅ (V++)	KA ₆ (II++)	95,,	
KA ₃ (V++)	KA ₅ (II++)	90,,	
KA ₂ (VI++,VII++)	KA ₇ (III++,IV++)	85,,	
KA ₀ (VII++)	KA ₄ (IV++,V++,VI++)	80,,	
KA ₁	KA ₃ (V++,VI++,VII++)	75,,	
KA ₁	KA ₂ (VI+,VII+)	70,,	

第三節 長時保存セル「セラチン」食鹽

水溶液内ニ起ル一種ノ變化ニ

就イテ

本反應ニ使用スル「セラチン」食鹽水溶液ハ長時保存スルト(特ニ寒冷ナ處デ)往々一種ノ變化ヲ受ケテ、反應ニ使用シテモ美麗ナ凝析沈降反應ヲ起サナイデ唯陽性液ノ場合ニ甚ダシイ濁濁ヲ發生スル計リニナツテ來ルコトガアル。斯シナ様ニ變化シタ「A」液ヲ使用スルト稀レニ活動性結核ノ無イ健康人ト思ハレル者ニモ同様ノ濁濁ヲ生ジテ來ルコトガアルカラ、使用シテモ不都合デアル。而シテ「A」液ニ變化シテ來タ「A」液デモ加熱スルト再ビ良好ナ試藥ノ性質ヲ恢復シテ來ル。加熱ハ煮沸シテ居ル重湯煎デ二十分乃至三十分間行ヘバ充分デアル。斯シナ變化ニ陥ル保存期間ハ必ズシモ一定シナイデ、或ルモノハ既ニ調製後四十日位デ

變化スルガ、或ル場合ハ二三ヶ月ヲ經過シテモ變化シナイコトモアル。要スルニ調製後一ヶ月以内ナレバ決シテ斯ンナ變化ヲ起スコトガ無イカラ安心シテ使用シテモヨイガ、念ノ爲メ長期保存シタ「A」液ヲ使用スル時ニハ使用ノ前日カ或ハ數時間前ニ重湯煎デ二三十分間煮沸シテ加温シテ置クト誤リハナイ。「A」液ニ「ヤトレン」ヲ溶解シタモノデモ同様ノ現象ガ起ル。

第四節 「A」反應ニ關スル爾後ノ實驗例

第一項 肺結核患者ニ就イテ

肺結核患者ニ關スル本反應ノ實驗ハ比較的多數ノ例ヲ以テ本誌第三卷第一號デ報告シテ置イタガ、更ニ其後余等ノ共同勞作ニ依ツテ追試實驗ヲ重キタカラ、其ノ要點ヲ茲ニ述ベテ置ク。

東京市療養所デ余等ガ直接診斷シタ患者ガ合計二百〇四名デアツテ、此ノ内ツルバングルハルド氏等ノ分類法デ第一期ニ相當スルモノガ三十七名、第二期ハ百〇一名、第三期ハ六十六名ノ比デ全體ヲ通ジ陽性反應ヲ呈シタモノガ百九十三例デ、「(土)」ノ反應ヲ呈スルモノガ四例、全ク陰性ノモノガ七例デアアル之ヲ細別スルト第一期患者三十七例中陰性五例デ、第二期百〇一例中陰性二例、「(土)」四例、第三期五十四例ハ悉ク陽性ヲ示シタ。全體ヲ通ジテ約九六・五%ノ陽性率ヲ示シ第一期患者ハ約八六%、第二期患者ハ約九八%デ第三期患者ハ一〇〇%ノ陽性率ヲ示シタ。之ヲ以前鴻上ノ行ツタ實驗ト比較スルト陽性率ハ更ニ大デアアル。其ノ理由ハ患者ノ具合ニモ由ツタデアラウガ、一面ニハ以前ノ實驗ヨリモ食鹽ノ最大濃度ノ限界ヲ〇・二%ダケ多クシタコトモ陽性率ヲ一層大ナラシメタ所以デアラウト思フ。要スルニ活動性結核竈ノアルモノナレバ前後二回ノ多數ノ實驗例ニヨリ、殆ド一〇〇%ノ陽性率ヲ現ハスモノト看做シテヨイト思フ。

本實驗例中デモ陰性或ハ「(土)」ナドニ現ハレタ第一期ヤ第二期患者デハ殆ド悉ク無熱ノモノデ、實際ハ活動性ノ結核デ無クテ非活動性ノモノト看做シテモヨロシイヤウナモノデアアル。更ニ是等ノ陰性ニ出タ患者デ目下ハ病狀ハ非活動性デアツテモ、病竈ガ甚ダ「ラビール」ノ狀況ニアツテ動モスレバ活動性ニ移行シ易イ様ナモノ、即チ尙ホ治療ヲ忽ガセニスル

コトノ出来ヌヤウナ者ナレバ、既ニ報ジテ置イタヤウニ少量ノ舊「ツベルクリン」ヲ注射シテ置イテ本反應ヲ繰リ返シテ行フト容易ニ陽性ノ結果トナツテ現ハレテ來ル次第デアアル。結核患者ニ對スル診斷的ノ價値ハ大體前業績ト同ジデ、更ニ其ノ豫後的或ハ治療上ノ指針トシテノ本反應ノ價値ニ於テモ亦前業績ト大同小異ナルモ、特ニ述ベテ置キ度イ事ハ本反應ノ陰性或ハ(十)ノ程度ニ現ハレル様ナ患者デ、シカモ尙ホ治療ヲ必要トスル程度ノ結核患者(例ヘバ少量ノ「ツベルクリン」注射後直ニ反應ノ陽性ヲ示スニ至ルガ如キ)ニハ、第一期、二期、三期ノ分類ニハ顧慮セズ、適當ナ特殊治療ヲ開始スルト著シイ良果ヲ得ラレルモノデアアル(第七表參照)。

第七表 肺結核患者ニ於ケルツベルクリン反應ノ成績

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	姓名
♂	♂	♂	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♂	性
一八	二三	三九	二〇	二一	二三	二五	二〇	二一	一八	三五	二九	年齢
ナ	際物商	機械商	ナ	女工	官吏	奉公人	事務員	ナ	奉公人	無職		職業
シ			シ					シ				業
II	III	I	II	III	III	II	II	II	II	I	II	病期
(一)	(一)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)	微毒既往症
-	-	+++	-	+++	-	-	-	+++	±	+++	-	W, R
-	-	+	-	-	-	-	-	+	+	+	-	M, T, R
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	K, A
-	+	+++	-	-	-	-	-	+	-	++	-	S, G, R
						滲出性肋膜炎ノ合併症有				非働性血清ノW, R (一)		備考

原著

鴻上・高橋・佐々木 活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「ツベルクリン」反應ニ關スル知見補遺

原著 鴻上・高橋・佐々木ト活動性結核ノ診断及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 α 」反應ニ關スル知見補遺

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♀	♂	♀	♂	♀	♀	♂	♂
二四	二九	二四	二三	三六	二六	二八	二一	四〇	三五	二七	二〇	二八	六三	二三	二四	二八	三四	二七	二四
				豆腐商	ナ シ	事務員	鐵道	會社員	傭人	ナ シ	女工	藤表商	ナ シ	ナ シ	ナ シ	ナ シ	ナ シ	算盤	左官
II	III	II	II	III	II	III	II	II	II	II	II	II	II	III	II	II	III	III	II
(一)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)	(一)	(一)	曖昧	不詳	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
-	卅	-	-	-	-	-	-	卅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	+	-	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+
-	+	-	-	-	-	-	-	卅	-	±	-	-	-	-	-	-	-	-	-

72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
↑	↑	↑	↑	↑	♀	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	♀
二一	三五	四三	三八	一八	一七	二五	二五	五二	二三	四八		二七	五五	二九	二〇	四二	二一	三二	三七
裁縫	仕立職	印刷	會社員	鐵工職	女工	市電車掌	理髮業		薦職	下駄商		大工	店員						
I	II	I	II	II	II	II	I	II	II	II	II	II	I	II	III	III	III	II	II
(-)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)
-	-	-	-	-	-	++	-	-	-	-	-	-	-	-	-	卅	-	卅	-
-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+
+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	±
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	卅	-
			兼滲出性肋膜炎													非働性血清M、R(孵卵器)(一)			

92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♀	♀	♂	♀	♀	♂	♂	♂	♂	♂	
四〇	二四	三〇	四七	五〇	二九	二七	五三	三〇	二一	一九	二三	二六	二二	三一	三三	一九	二二	三六	三一	
製銅職	學生	大工	洋服	車夫	道具	圖案業	荒物商	無職	鐵工	看護婦	ナシ	帽子商	ナシ	ナシ	靴職	商業	指物	無	理髮	
II	I	III	II	II	III	I	III	II	II	II	II	II	II	III	III	I	II	II	II	
(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	
卅	-	-	-	-	卅	-	卅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
+	-	-	-	+	+	±	+	-	-	-	-	±	+	-	-	-	-	-	-	
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
±	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
										亡五月一日腸出血ニヨリ死		M、T、R辛ハジテ格子ヲ透視シ得タリ								

原著

鴻上・高橋・佐々木 活動性結核ノ診断及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 α 」反應ニ關スル知見補遺

132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	221	120	119	118	117	116	115	114	113
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
♀	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂
三五	二三	二九	二九	二九	二八	一八		三一	二八	二八	二三		二七	四三	三〇	三〇	三一	三〇	二七
ナ	鋳	鍛	職	裁	勞	會		職	無	備	ペン		ナ	職	外	ナ	足	植	印
ン	職	冶	工	縫	働	社		工	職	人	キ		シ	工	交	シ	袋	存	刷
Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ
(一)	(一)	(一)	(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
+	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-
+	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-
+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	±	A ₇ A ₁ (一)(十)	+	+	+	+	+	+
+	-	-	-	±	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	姓 名	性	病期	W, R	M, T, R	K, A	S, G, R	備 考
♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♂	♂	♀	♀			Ⅲ	-	-	+	-	“(一)”
																				Ⅲ	-	-	+	-	“(一)”
																				Ⅱ	-	-	+	-	“(一)”
																				Ⅲ	-	-	+	-	“黴毒既往症(一)”
																				Ⅰ	-	-	+	-	
																				Ⅰ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	卅	±	-	+	ナ シ
																				Ⅱ	-	-	+	-	“黴毒感染ノ既往症アリ”
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	“兼結核性股關節炎”
																				Ⅱ	-	-	+	-	
																				Ⅱ	-	-	+	-	

↑ 二五 時計店 Ⅲ (一) - - - + -

原著

鴻上・高橋・佐々木 Ⅱ 活動性結核ノ診断及豫後測定ヲ目的トセル所謂アレン反應ニ關スル知見補遺

171	■	♀	Ⅲ	-	-	+		”(一)
170	■	♂	Ⅱ	-	-	+		”(一)
169	■	♀	Ⅲ	-	-	+		”(一)
168	■	♂	Ⅲ	-	-	+		”(一)
167	■	♀	Ⅱ	-	-	+		同(一)
166	■	♂	Ⅲ	-	-	+		微毒感染ノ既往症アリ
165	■	♂	Ⅱ	-	-	+	-	”(一)
164	■	♀	Ⅱ	-	-	+	-	”(十)
163	■	♂	Ⅱ	卅		+	±	兼硬性下疳
162	■	♂	Ⅰ	卅		+	±	”(十)
161	■	♂	Ⅱ	-	+	-	-	”(十)
160	■	♂	Ⅲ	-	-	-	+	”(一)
159	■	♀	Ⅲ	-	-	+	-	”(十)
158	■	♂	Ⅲ	-	-	+	-	”(一)
157	■	♂	Ⅱ	-	-	+	-	”(一)
156	■	♂	Ⅲ	-	-	+	-	”(一)
155	■	♂	Ⅱ	-	-	+	-	”(一)
154	■	♂	Ⅲ	-	-	+	-	”(一)
153	■	♂	Ⅱ	-	-	+	-	”(一)
152	■	♂	Ⅱ	-	-	+	-	”(一)

原 著 鴻上・高橋・佐々木 Ⅱ 活動性結核ノ診断及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 Δ 」反應ニ關スル知見補遺

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	姓 名
♂	♀	♂	♀	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♂	
四四	一五	一八	三四	四七	二七	二七	二三	四九	二八	二三	年 齡
小使	ナシ	給仕	無シ	塗師	魚商	給仕	勞働	無シ	公吏	職工	職 業
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	病 期
(一)	(一)	(一)	(+)	(+)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	無毒ノ既往
-	-	±	+	-	-	-	-	-	-	-	M, T, R
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	K, Δ
						兼右滲出性肋膜炎					備 考

179	178	177	176	175	174	173	172
♂	♂	♂	♂	♀	♀	♂	♂
Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ
++	+	-	-	-	++	-	+
±	+	-	±	-	+	+	±
-	+	-	+	+	+	-	+
+	+	-	+	-	+		
			(一)	"(一)	"(一)	"(一)	"(一)

結核擬似者、是等ノモノハ殆ド悉ク無熱デ臨牀的ニ所見モ殆ド無ク唯肺尖ニ多少ノ浸潤ノ徵ガアツテ時々肩ガ凝ツタリ
 氣分ガ好クナイ位ノ程度ガ關ノ山デ神經衰弱ノ様ナ訴ヘノアルモノガ多數デアアルガ十四例中陽性ノモノハ一例アツテ其
 ノ他ハ悉ク陰性デアアル。活動性結核ノ診斷トシテハ蓋シ當然ノ結果デアアル(第八表參照)。

第八表 結核擬似者ノ反應ノ結果

204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191
♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂
三八	三七	二一	三八	二七	三三	二三	二二	三六	三一	一九		二二	二五
ナ	活 版 業	會 社 員	大 工	職 工	職 工		米 屋	製 餡 業		雇 人	會 社 員	家 畜 業	郵 便 配 達
Ⅲ	I	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	I	I	Ⅱ	Ⅲ	I	Ⅱ	I	Ⅲ	Ⅱ
(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)
-	-	±	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-
+	+	±	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+
					兼右滲出性肋膜炎						肋膜炎		兼肋膜炎經過

第二項 結核擬似者、微毒、癩及ビ其ノ他ノ結核外ノ疾患、肺臟以外ノ結核ト健康者ニ就イテ

モ發見セラレズ、患者自身モ大シタ訴ヘモ無イ様ナモノハ大多數ハ反應陰性デアアル。補體結合反應ハ強陽性デア、反應ガ陰性ノヤウナ微毒性疾患ハ一般ニ「サルバルサン」ノ治療ナドヲ強硬ニ行ツテモ、中々頑強デ補體結合反應ナドハ治療ノ結果陰性トハナラヌ場合ガ多イ。神經系統ヲ侵シタ微毒性疾患ノ殆ド悉クノモノガ「 Δ 」反應ノ陰性ナドハ好適例デアアル。之ニ反シテ「 Δ 」反應ノ陽性ニ現ハレル様ナ微毒性疾患デア、速ニ「サルバルサン」ノ治療ナドガ奏效スル場合ガ多イ。此ノ點カラ謂ヘバ「 Δ 」反應ハ微毒性疾患デア、陽性度ト豫後ト並行シナイデ却ツテ逆行シテ居ル。尙ホ微毒患者ノ血清デ特ニ注意シテ置キ度イ事ハ「 Δ 」反應ハ結核デア、最後ノ試験カラ逆ニ即チ「 Δ 」液ヲ入レタ試験管カラ順次ニ第六、第五、ノヤウニ反應ガ強ク早ク現ハレテ來ルガ微毒デア、屢々此ノ順デア起ラナイ第二、一、及ビ一ノ試験管ニ最モ早ク且ツ強ク反應ガ現ハレテ來ルコレガ微毒ト結核トヲ區別スル一助トモナル譯デアアル(第九表及ビ十一表參照)。

第九表(二) ワッセルマン氏反應陽性血清ト「 Δ 」反應

姓 名	性	診 斷	W, R	M, T, R	K, A	S, G, R	備 考
230	♂	微毒?	-	±	-	-	
229	♂	〃	+++	+	-	+	
228	♂	微毒	+	+	-	-	
227	♀	微毒?	-	±	-	-	
226	♂	〃	+	±	-	-	
225	♂	〃	+++	+	-	+	
224	♂	〃	+++	+	-	+	
223	♂	〃	±	-	-	-	
222	♂	〃	+	+	-	±	
221	♂	微毒	+++	+	-	±	

原 郷

鴻上・高橋・佐々木 活動性結核ノ診斷及豫後測定ヲ目的トセル所謂「 Δ 」反應ニ關フル知見補遺

249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	姓 名	性	年 齡	診 斷	W, R	M, T, R	K, A	S, G, R	備 考
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	♀	五六	黴毒? 毒	-	-	-	-	
	♂	♂		♂	♂	♂	♀	♀	♂	♂	■	♂	三三	黴毒	±	±	+	±	
		♂									■	♀	二八	”	+	-	-	+	
											■	♀	二八	”	+	-	-	+	
											■	♂	三三	黴毒	±	±	+	±	
											■	♂	五三	”	卅	+	+	+	
											■	♀		”	卅	-	-	-	
											■	♀	二八	”	+	-	-	+	
											■	♂		”	卅	-	-	+	
											■	♂	三三	黴毒	±	±	+	±	

第九表(二) ワッセルマン氏反應陽性血清ト反応

238	237	236	235	234	232	231	姓 名	性	年 齡	診 斷	W, R	M, T, R	K, A	S, G, R	備 考
■	■	■	■	■	■	■	■	♂	♂	”	±	-	-	-	
							■	♂	♂	黴毒?	-	-	-	-	
							■	♂	♂	黴毒?	±	-	-	-	
							■	♂	♂	腦黴毒?	-	-	-	-	
							■	♂	♂	「ゴム」腫	+	+	+	±	
							■	♂	♂	”	±	±	-	-	
							■	♂	♂	黴毒	+	+	-	+	

原著 鴻上・高橋・佐々木「活動性結核ノ診断及豫後測定ヲ目的トセル所謂ツン反應ニ關スル知見補遺

ヲ癩ト結核トハ自分等ノ實驗シタ範圍デハ悉ク反應ノ現ハレ方ヲ異ニシテ居ル。結核ハ前ニ述ベタヤウニ最後ヨリ逆ニ順ニ規則正シク現ハレルガ癩ノ血清ハ第三番、二番、一番ノ試験管ガ最後ノ第七番目ノ試験管ヨリモ強ク早く現ハレルコトデ面白イ鑑別ガ出來ルト信ズル。更ニ癩ヤ微毒患者ノ多イ特殊ノ病院デ多數ノ實驗ヲ行ツテ頂キタイ(第十表參照)。

第九表(三) ツンセルマン氏反應陽性血清ト

280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	姓名
■	■	■	■	■	■	82	■	467	81	■	84	83	■	W, R, K, A
-	-	-	+	+	+	-	-	+	-	+	-	+	-	
294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	姓名
■	■	77	■	■	■	■	74	■	■	■	■	■	■	W, R, K, A
+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	

ツンセルマン氏反應

第九表(四) ツンセルマン氏反應

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	姓名
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W, R, K, A
±	+	+	+	+	+	±	+	+	+	備考
-	-	-	-	+	-	-	+	-	-	M, T, R ±
			M, T, R +				M, T, R +	S, G, R +	S, G, R +	

陽性血清トツンセルマン氏反應

第十表 癩血清ト

317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	姓名
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	W, R, K, A
+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	±	
+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-	

結節癩

ツンセルマン氏反應

結核外ノ疾患

精神病患者十數名ヲ検査シタルモ、結核ヲ合併シテ居ルモノ以外ハ假令、ワッセルマン氏反應ガ強陽性ノモノデモ殆ド悉ク「 Δ 」反應ハ陰性ヲ示シタ。

肺臟以外ノ結核ニ就イテハ其ノ例數ハ極メテ少數デアアルガ、脊椎「カリユス」四例中陽性ノモノ二例デ共ニ下降膿瘍ヲ形成シテ居ルモノデアアル。其ノ他結核外ノ疾患各種ニ就イテ少數例宛本反應ヲ行ツタ結果ハ、第十表ニ示シテアルカラ御参照ヲ願ヘバ明カデアアルガ、大體ニ謂ヘバ結核外ノ疾患デモ臟器破壊ト吸收ノ甚大デアアルモノニハ、往々「 Δ 」反應ガ陽性ヲ現ハスコトガアル。斯ンナ場合ニ活動性結核ニヨル陽性反應カ否カラ鑑別スル法ハ前業績ニ述ベテ置イタ。「 Δ 」反應ハ健康者ニハ從來ノ實驗上常ニ陰性ヲ示スモノト看做シテヨイ(第十一表參照)。

第十一表 結核以外ノ疾患及ビ肺臟以外ノ結核、健康者等ノ「 Δ 」反應ニ就イテ

327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	姓 名	性	年 齡	病 名	W, R	M, T, R	K, A	S, G, R	備 考
												五八						
													妄想性痴呆	-				
													麻痹性痴呆	卅				
													麻痹性痴呆	卅				
													麻痹性痴呆	-				
													麻痹性痴呆	卅				
													麻痹性痴呆	+				
													躁鬱病	-				
													麻痹性痴呆	±		+		
													躁鬱病	±				
													老人性痴呆	+		+		
													老人性痴呆	+		+		兼肺結核第二期

347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
♂	♂	♀	♂	♀	♀	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
三一	六一	二四	三三	三〇	二五	四二	五七	四一	二〇	二二	二五	四一	四〇		六〇	五一			三〇
不明	神經症?	頸部淋巴腺炎	肋間神經痛	不明	頸部淋巴腺炎	腰脊髓炎?	動脈硬化症?	神經衰弱?	腎臟炎	神經症?	癩痛	脾臟肥大	緊張病	麻痹性痴呆	老人性痴呆	麻痹狂?	麻痹性痴呆	麻痹性痴呆	早發性痴呆
-	±	-	+	-	±	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	±	+	-
-	-	-	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	+
-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
													腦脊髄液ニヨル			肺結核第三期			兼肺結核

380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	370	369	368
█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
♂	♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♂
										二八	二六	二九
”	健康	炎症 神経痛 十肺	脊髓「カリエ ス」下降 膿瘍	”	”	”	”	”	健康	不明	子宮内膜炎	産褥
-	-	±	+	-	±	-	++	++	卅	-	+	+
-	-	-	-	±	-	-	+	+	+	-	±	+
-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	±	±	-	+	+
		肺結核?					”	同様	黴毒感染既往症アリ			

第二項 ザツクス、ゲオルギー氏反應、マイニツケー氏反應及ビワツセルマン氏反應ノ比較實驗

余等ハ「」反應ノ實驗ヲ行フ旁々同時ニザツクス、ゲオルギー氏反應、マイニツケー氏反應及ビワツセルマン氏反應ヲ行ヒ是等ノ陽性率ト肺結核ニ對スル非特異的ノ陽性反應ノ有無強弱ヲ検査セントシタ。其ノ例數ハ二百數十デ此ノ實驗ニ際シテハ患者ニ微毒既往症ノ有無ヲ問ヒ糺シテ置イテ、非特異性反應デアルカ否カラ判斷スル一ツノ根據トシタ。其ノ實驗ノ要點ヲ概括シテ述ベルト。

(一)「」氏反應、マ氏反應及ビザ、ゲ氏反應何レモ陽性ノモノ六四例。

(二) W 氏反應トマ氏反應トノミガ陽性ノモノ一三例

(三) W 氏反應トザ、ゲ氏反應トノミガ陽性ノモノ一例

(四) マ氏反應トザ、ゲ氏反應トノミ陽性ノモノ三例

(五) W 氏反應ノミ陽性ノモノ一六例

(六) マ氏反應ノミ陽性ノモノ二一例

(七) ザ、ゲ氏反應ノミ陽性ノモノ一例

以上ノヤウナ成績デ、此ノ内ワッセルマン氏反應ノミガ陽性デ、他ノ二ツノ反應ガ陰性デアアル十六例ニ就イテ見ルト微毒ニ對スル既往症ガ不詳ノ者ハ除外シテ、既往症ノ無イト斷言シタ肺結核患者三名ニ陽性反應ヲ呈シテ居ル。是等ハ慥カニ微毒ガナイモノトスレバ肺結核ニ對スルW 氏反應ノ非特異性ノ陽性結果ト看做スコトガ出來ル(第十二表)(5)。

次ニザ、ゲ氏反應トマ氏反應ノ二ツガ現ハレテ、W 氏反應ノ陰性ノモノデ、微毒ノ既往症ヲ全然否定スルモノガ二例アル。是等モ肺結核ニ對スル非特異的陽性反應ヲ大イニ疑ハチバナラス。更ニマ氏反應ノミ陽性デアツテ、ザ、ゲ氏反應ヤW 氏反應ノ何レモ陰性デアアル患者二十三例中、微毒ノ既往症ヲ否定シテ臨牀的ニモ微毒ノ症狀ナドヲ發見シ得ナイモノガ十一例アツテ、ソノ大多數ハ肺結核デアアル是等ノモノ、内ニハ非特異性ノ反應ヲ疑ハチバナラスモノガアルト思フ。

(第十二表(4)(6)(7)參照)

以上ノ結果カラ概括シテ述ベルト。

(一) W 氏反應デモザ、ゲ氏反應デモ或ハマ氏反應デモ各々肺結核等ニ對シテ臨牀上ノ所見ヤ既往歴カラ推察シテ一程度ノ非特異的ノ陽性反應ヲ呈スルモノデアラウト思フ。此ノ非特異的ノ陽性反應ヲ疑ハル、場合ノ最モ多イノハマ氏反應デ次ハワッセルマン氏反應デザ、ゲ氏反應ハ最モ少イヤウナ結果ヲ得タガ、余等ノ使用シタザ、ゲ氏用ノ「アンチゲン」ハ多少效力ガ薄弱デアツテ、他ノ二ツノ微毒反應ノ陽性率ヨリモ少イカラ、從ツテ非特異的ノ陽性反應ノ率モ減ジタモノダト思フ。近時或ル研究家ノ報ジタ處ニヨルト人工的ニ組織ノ破壊ト消化ヲ盛ンニスルト、W 氏反應ガ陽性ニ現ハレ

ルト唱ヘテ居ル。此ノ所説ノ是非ハサテ置キ、是等ノ反應ヲ微毒ニノミ特異デアルト考ヘテハナラヌ事ハ明カデア
 (二)ワッセルマン氏反應トザックス、ゲオルギー氏反應、マイニッケー氏等ノ反應ノ陽性率ハ大體一致スルガ、陽性度
 ハ必ズシモ一致シナイ。

(三)臨牀的ニ單ニ微毒ノ有無ヲ診断スル目的ナラバマイニッケー氏ノ法ナドハ簡明デ最モ適當シタモノト思フ(後表參照)。

第十二表 ワ氏反應、マ氏反應、ザ、ゲ氏反應ノ一ツノミトマ氏反應及ビザ、ゲ氏反應ノミガ陽性ノモノヲ示ス

ワ氏反應ノミ陽性デマ氏及ザ、ゲ氏應反

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	姓 名	性	診 断	微毒ノ既往症
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	頸部淋巴腺炎	♀	不詳	(-) 微毒ノ既往症
↑	↑	♀	↑	↑	↑	↑	♀	↑	↑	↑	健康	♀	不詳	(+) 微毒ノ既往症	
同	肺結核Ⅲ	〃	〃	〃	〃	〃	微毒	肺炎十神經痛	神經症	健康	健康	♀	不詳	(+) 微毒ノ既往症	(-) 微毒ノ既往症

(6)マ氏反應ノミ陽性

13	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	姓 名	性	診 断	微毒ノ既往症
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	肺結核Ⅱ	♀	肺結核Ⅱ	(-) 微毒ノ既往症
↑	↑	↑	↑	↑	↑	♀	↑	↑	↑	↑	↑	♀	肺結核Ⅱ	肺結核Ⅱ	(-) 微毒ノ既往症
II	II	II	II	I	II	II	III	II	II	III	III	♀	肺結核Ⅱ	肺結核Ⅱ	(-) 微毒ノ既往症

16	15	14	13
■	■	■	■
♂	♂	♂	♀
微毒	脊椎「カリエス」 下降膿瘍	神經痛	肺結核
”	”	不詳	(一)

(4) マ氏反應トザ、ゲ氏反應ノミ陽性

3	2	1	姓名	性	診斷	微毒ノ既往症
■	■	■			肺結核Ⅱ	(一)
♂	♂	♂				(一)
I	II					(十)

(7) ザ、ゲ氏反應ノミ陽性

I	II	(一)
---	----	-----

(附記) ザックス、ゲオルギー氏ノ反應ハ悉クザックス、ゲオルギー氏ノ原法ニ據ツタ唯「ヒヨレストリン」ハ牛心越幾スト酒精混合物一〇坵ニ對シ一%ノモノ〇・六ヲ加ヘタ。マイニツケー氏ノ反應ハ佐藤學士ノ紹介デ獨逸ヨリ直輸入セラレテ居ルト稱セラレル武田商店發賣ノ試藥ヲ使用シタ。此ノマイニツケー氏ノ試藥デ心附イタ事ハ反應ノ陽性カ陰性カラ區別スル法ハ單ニ戸障子ヲ透シテ見テハ習レナイモノハ判斷ガ下シ難イコトガアルガ、自分等ハ電燈ヲ透シテ見ルコトハ一番良イ法デアラウト思ウ陽性ノモノハ全ク電燈ノ火心(「タングステン」ノ部)ノ部ガ寫ツテ見ヘナイガ陰性乃至(十)ノ程度ノモノハ必ず多少ニ拘ハラズ之ガ透シテ見ヘル。又今一ツノ缺點ハ此ノ試藥ハ稀レニ變化シテ居テ、凡ベテノ血清ニ陽性ニ現ハレル様ナコトガアリ得ルヤウニ思フコト(十)程度ノ反應ガ比較的多イノデ、從ツテ非特異的ノ反應ノヤウナ場合モ多クナル事ダト思フ。本編中反應ノ(十二)ノモノハ陽性ノ部ニ組ミ入レタ。表中 W.R. ハワ氏反應、M.T.R. マ氏反應、S.G.R. ハザ、ゲ氏反應、K.A. ハ鴻上氏反應ヲ意味スルモノデアアル。

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
♂	♂	♀	♀	♀	♂	♂	♂	♀	♂	♂
微毒	微毒?	微毒?	”	微毒	健康	”	不明	神經衰弱	同	肺結核
(一)	(十)	”	”	不詳	(十)	”	不詳	不詳	(一)	(一)

綜 括

余等ノ實驗ヲ綜括スルニ(一)坊間販賣ノ卵黃「レチ、ン」製劑内ニハ多少ニ拘ハラズ「A」反應ニ抑制的ニ作用スル夾雜物ヲ含有シテ居ル、此ノ夾雜物ハ一定時「レチ、ン」ヲ開栓シテ放置シ、硬化濾過紙ヲ以テ濾過スルコトニ依ツテ除去スルコトガ出來ル。

(二)「レチ、ン」溶液ニ使用スル「エチール」酒精ハ九七%内外ノモノヲ最モ適當トス。

(三)反應ニ使用スル「A」ノ各液ハ長時保存スル時ハ往々一種ノ變化ヲ起シ、使用ニ適シナイ。斯ク變化シタ液ハ二三十分間重湯煎デ煮沸スルト其ノ性能ハ復活スル。

(四)余等本回ノ「A」反應ノ實驗デハ肺結核患者二百〇四例ニ於テ陽性率九六・五%ヲ示シ、ワッセルマン氏反應陽性血清八十五例中陽性ヲ呈セルモノ二十九例デ、其ノ陽性率ガ約三四%ニ當ル。癩患者十三例中陽性ヲ呈シタルモノガ九例デ、其ノ陽性率ハ六九%デアアル。

(五)癩ト微毒デ「A」反應ガ陽性ニ現ハレル場合ハ癩ノ方デハ殆ンド悉ク結核ニ現ハレル反應ニ逆行シテ來ル。微毒ノ血清デモ屢々反應ノ現ハレ方ガ結核ト反對ノ方向ニ起リテ來ル。コレガ鑑別上興味アル點ダト思フ。

(六)結核擬似者(多クハ無熱デ、自他覺的共ニ臨牀的ニ所見ノ殆ド無イモノデ、時々肩ガ凝ツタリスル程度ノ者)十四例中、一例陽性デ他ハ悉ク陰性ヲ示シタ。脊椎「カリエス」四例中、二例ガ陽性デアツタ。其ノ他結核外ノ疾患デモ組織破壊ト吸收ノ劇シイモノニハ往々陽性ヲ示シタ。是等ヲ鑑別スル手段ハ前業績ニ述ベタ通りデアアル。健康者ハ本反應ガ陽性ヲ呈スルコトハ全クナイト謂ツテヨイ。

(七)微毒ノワ氏反應ヤマ氏反應或ハザ、ゲ氏反應ナドモ肺結核患者ニ對シテ一程度ノ非特異陽性反應ヲ呈スルモノト信ズル。摺筆ニ望ミテ余等ノ本實驗ニ對シ所長田澤博士ノ御校閲ヲ謹謝シ又種々ナル便宜ト多量ノ材料ヲ惠與セラレタ村田學兄戸山病院醫局竝ニ大塚東京市簡易療養所醫局諸彦ニ滿腔ノ謝意ヲ表シテ置キマス。(一九二五、五、二十六日ノ稿)

文 獻